

校長会報

第139号

宇都宮市立錦小学校
栃木県小学校長会事務局

発行責任者
福田 順一

印刷所
(有)正栄社印刷所

見極めて、着実に

栃木県小学校長会長 福田 順一



いじめ・不登校・暴力行為の問題、また、急速的に進展する情報化やグローバル化、AIやロボット技術の進歩など、子どもたちを取り巻く社会は、複雑で予測困難な状況となっております。子どもたちのこれからの生き方に大きく影響するものとなっております。

これからの生きる子どもたち一人一人の可能性を伸ばし、未来の創り手となる

力を育むために私たち校長には、創意ある展望と計画のもと、学校経営をすることが期待されています。こうした状況の中、今年度から新学習指導要領の移行期間となりました。全面実施に向けての準備をより着実に進めなければなりません。

新学習指導要領では、十一年先の社会の在り方を見据え、育てたい「生きる力」の理念を具現化し、学校教育の中核となる教育課程の改善が求められています。

社会に開かれた教育課程、主体的・対話的で深い学び、カリキュラムマネジメント、英語や道徳の教科化、プログラミング教育など、目新しいキーワードが次々に並び、小学校教育には大きな変革が求められています。また、学校経営においても、専門スタッフとの連携協力によるチーム学校の取組やコミュニケーションスクールなど地域とともにある学校づくりの推進等、学校の機能にも変化が求められています。さらに、教職員の業務改善など課題は山積しています。

二〇一六年、米ハーバード大学で教育学大学院長を務めるジェームズ・ライアン氏が同校の卒業式で行ったスピーチ「人生に必要な五つの問い」が話題になったことがあり、その中に、「Wait, what? (待つて、どうしようか)」「Couldn't we at least... (少なくとも...できるのでは)」「What truly matters? (本当に重要なことはなんだろうか)」という問い掛けがあります。様々な変革が求められる状況の中、私たち校長は、新たなキーワードに踊らされることなく、ライアン氏の問い掛けのように、やるべきこと、重要なことを見極め、地域や学校の現状に根付いた改革を一步步進めていくことが大切なのではないでしょうか。

そのためには、互いのコミュニケーション力やネットワーク力を高め、各地区、各学校の実践に学びながら、各学校が一層活力ある学校づくりを推進できるように校長会の運営に力を尽くしてまいりますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

平成三十年度栃木県小学校長会が、五月十七日に県教育会館で、県教育長の宇田貞夫様を始め多くのご来賓をお招きして開催されました。福田順一会長は挨拶の中で、「学校現場には、これまでの教育の実践や蓄積を生かしつつ、子供たちが未来を切り拓くための資質や能力、知識や理解の質を高めた確かな学力、豊かな心や健やかな体等の確実な育成が求められており、校長のリーダーシップの下、各学校の特色を生かした実践が期待されています。急激な教育改革の中で、主体的な取組を進め、学校内の内なる必要間に迫られた着実なボトムアップを目指したいものです。」また、学校運営上、最重要課題は何といつても、学校の安全安心の確保ではないかと思えます。これまで何も起きていないから大丈夫ではなく、様々な角度、視点から教育活動、学校環境を見直すことが重要です。」と述べられました。

その後、事業報告や決算報告、今年度の事業案や予算案が審議され、承認されました。その後の研修会では、群馬大学大学院教育学研究科准教授の高橋望先生から、「学校における組織マネジメントの展開」と題して講演があり、危機管理体制を組織化するためには、教職員が想いを共有しながら、危機に陥らないための予防(リスクマネジメント)と事後のスピーディな対応(クライシスマネジメント)を検討する必要がある、との示唆に富んだお話を聴くことができました。

第七十一回
栃木県小学校長会総会

平成三十年度
活動目標

本校長会は、新たな時代の要請に応える教育の実現を目指し、次の基本目標を掲げ、次期学習指導要領も見据えながら、知・徳・体の調和を重視する「生きる力」を育む教育を一層推進する。今後、積極的に情報を収集し、ネットワークの活性化を図りながら学校改善のための研修に努め、学校経営及び日常の教育活動を通して積極的に研究・実践を積み重ねていく。

《基本目標》

新しい知を活かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進

《具体目標》

- 一 学校経営の充実
- 二 創意ある教育課程の実施
- 三 社会の変化に対応した教育の推進
- 四 豊かな情操と道徳心を養う教育の推進
- 五 教職員の指導力の向上と人材育成
- 六 危機管理意識や能力の高揚
- 七 関係諸機関との連携と組織の強化

地区会長一覽

宇都宮・上三川 浪花 寛

宇都宮市立昭和小学校
地区内七十六校の校長の経験知や発想を共有・結集し、「新学習指導要領」の着実な実施や、実効性のある「学校の働き方改革」の推進などの課題に取り組みます。

上都賀 大出 忠央

鹿沼市立みどりが丘小学校
鹿沼市・日光市両校長会との連携を密に取り、交流・共有し合いながら、新たな学びや気づきを学校改善に生かしていただける校長会を目指します。

芳賀 小森 祥一

市貝町立市貝小学校
一市四町二十八名の会員が全体研修や情報交換を通して学校経営の充実を図るとともに、校長自身の資質向上に努める校長会を目指します。

下都賀 田中 利文

壬生町立藤井小学校
壬生町と野木町、計十三名の会員が連携を図りながら、互いの町のよさを生かして研修に取り組み、今日

的教育課題の解決に努める校長会を目指します。

下野市 館野 正治

下野市立国分寺西小学校
下野市は、小学校十二校と中学校四校の合わせて十六校です。和やかでありながらも、情報交換を密にした上で、互いに高め合える校長会を目指します。

小山市 高山 芳樹

小山市立大谷東小学校
今年度は、学力向上、働き方改革、特別支援教育関係行事等の見直しを重点とし、会員相互の連携を深め、スピード感をもって課題解決に取り組みます。

栃木市 黒澤 博幸

栃木市立大平南小学校
栃木市では、「とち介の学び〜ゴールを見すえた授業づくり〜」で確かな学力の育成を目指しています。何でも言える。時には弱音をかける。相談できる。そんな校長会を目指します。

塩谷 岡田 明秀

矢板市立片岡小学校
二市二町の二十四名の会員が、積極的な研修による連携を深め、会員相互の資質の向上と今日的課題の解決に向け、意欲的に取り組む校長会を目指します。

那須 福崎 政弘

那須塩原市立関谷小学校
那須地区三市町校長会との連携のもと、会員相互の情報交換を密に研修を深め、時代にふさわしい教育課題の解決に取り組む校長会を目指します。

南那須 田代 昭彦

那珂川町立馬頭東小学校
地区内八校の小学校長が相互の連携・協力のもと、研究を深め、地域や今日的課題の解決に向けて、柔軟で意欲的に取り組む校長会を目指します。

佐野市 木村 豊

佐野市立佐野小学校
市内二十六校の校長が、各校で自らの個性を生かしたりーダーシップを執り、時代の要請に応えうる学校

づくりでは協力し合うチーム佐野校長会を目指します。

足利市 佐藤 宏行

足利市立山辺小学校
足利学校の建学の精神(自学自習)と生涯学習の立場に立った「足利市の教育目標」のある街として、校長自ら主体的に学び続ける校長会を目指します。

平成三十年度
役員一覽

- 会長 福田順一 (宇・錦)
- 副会長 浪花 寛 (宇・昭和)
- 副会長 黒澤博幸 (栃・大平南)
- 副会長 大出忠央 (上・みどりが丘)
- 副会長 佐藤宏行 (足・山辺)
- 書記 赤上淳子 (宇・桜)
- 書記 中村ひろみ (宇・姿川第二)
- 書記 高島俊一 (芳・益子)
- 書記 小曾戸典子 (宇・姿川第一)
- 会計 栗原武夫 (宇・陽東)
- 会計 野田充昭 (那・荒川)
- 会計監査 深澤桂一 (那・東)
- 佐藤信弘 (佐・栃本)
- 鈴木一恵 (下・齋寺)



専門部
活動方針

総務部

部長 石坂 典久
宇・陽南小学校

一 主題

栃木県小学校長会活動方針の具体的な推進

二 活動目標・内容

・ 本会の事業推進及び連絡調整
・ 教育懇談会等による対策活動の推進

・ 各都府に属さない必要事項の処理

(一) 県小学校長会定期総会の準備・受付等

(二) 県教育委員会への提案事項作成のためのアンケート実施と集計及び提案事項の検討

(三) 提案書作成と提出
(小中学校長会で作成、中学校が取りまとめ)

(四) 県教育委員会との教育懇談会出席

(五) 提案事項に対する回答の整理

(六) 全連小三地区対策・調研担当者連絡協議会参加予定

(本県の実情等の発表)

研修部

部長 野口 京子
宇・峰小学校

一 主題

新しい知を活かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進

二 活動方針

全連小大会主題と県小学校長会の基本目標に基づき、活動を推進する。

三 活動目標・内容

(一) 各地区の研修計画に基づく全員参加による研修の充実と推進

(二) 各種研究大会及び研修会の推進と協力

・ 第七十回全連小北海道大会への参加・提案
(南那須地区)

・ 第七十回関ブロ長野大会への参加・提案
(宇都宮・上三川 上都賀地区)

・ 第六十一回中央研究大会の実施
(研究発表と講演)

(三) 研修記録「第五十八号」の編集・発行

調査部

部長 角田 初男
宇・平石中央小学校

一 主題

各学校が取り組んでいる「生きる力」を育む教育の現状についての調査、及び学校経営上の課題解決に迫る資料の提供

二 活動目標・内容

各学校が取り組んでいる教育活動の内容や状況を調査し、学校経営上の諸課題解決のための資料として提供する。

(一) 学力向上の取組状況について (三年次)

(二) 働き方改革について (一年次)

※この二点について、七月上旬から中旬に調査のためのアンケートをメールで送付いたします。

期限までに各地区調査部長へ回答くださいますようお願いいたします。

調査の結果は、報告書にまとめると共に県校長会ホームページに掲載しますので、各校の教育活動改善の資料としてご活用ください。

厚生部

部長 小池 雄一
宇・雀宮中央小学校

一 主題

福利厚生の充実と健康増進・健康管理の推進

二 活動目標・内容

会員の福利厚生に関する各種事業を推進する。

(一) 学校生活協同組合との連携による会員の福利厚生の充実

(二) 教育関係諸団体との合同による福利厚生事業の充実のための要望

(三) 栃木県小中学校長会慶弔規程に基づく、会員の慶弔に関する事業及び会計業務

※平成三十年度は、小学校長会の慶弔の会計が県小中学校長会慶弔の会計を担当する。

今年度も会員のための各種事業が効率よく実施されるように努めますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。また、会員の慶弔に関する情報がありましたら、お知らせください。

広報部

部長 武田 公男
宇・白沢小学校

一 主題

県小学校長会の活動目標の具現化にかかわる広報活動の推進

二 活動目標・内容

校長が今日的課題や当面する学校経営上の諸問題に取り組み際の情報を提供する。

(一) 校長会報の年二回発行 (七月・二月)

・ 特色ある学校づくり

・ 豊かな心を育てる学校経営

・ 県校長会研修の取組

・ 県教育委員会からの情報

・ 全連小の動向・情報

・ 心に響く様々な話題

(二) 全連小広報活動への協力 (機関紙「小学校時報」など)

(三) 県小学校長会のホームページの運営・管理



主張 社会に開かれた教育課程の実現

栃木県小学校長会副会長 大出 忠央



今回の学習指導要領の改訂では「主体的・対話的で深い学び」ばかりがクローズアップされていますが、改訂のねらいは「社会に開かれた教育課程の実現」です。

社会に開かれた教育課程とは、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るといふ目標を学校と社会が共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働により、その実現を図っていくことです。

そのためには
①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るといふ目標を持ち、教育課程を介して、その目標を社会と共有していくこと。それには、今まで以上に学んだことと生活を結び付け、社会に役立つという経験が大切です。

②これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い、関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し、育んでいくこと。それには、自尊心を高めコミュニケーション能力を育んでいくことが大切です。

③教育課程の実施にあたって、地域の人的・物的資源を活用したり放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりして、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。それにはコーディネーターの養成や学校のコーディネーター力が不可欠です。

これらの課題に取り組むために、学校も社会も変わっていかねばなりません。そのための学校の授業改善のポイントが「主体的・対話的で深い学び」です。

改めて開かれた学校づくりという言葉の重みを感じているところ

主張 「働き方改革」に想う

栃木県小学校長会副会長 佐藤 宏行



社会の急激な変化が進む中で、子供が予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を育成するため、学校教育の改善・充実が求められている。

また、新学習指導要領の全面実施を控え、今年度から移行措置がスタートした。学校教育は大きな変革時期を迎えている。

このような中、平成二十八年度の教員勤務実態調査の集計でも、看過できない教師の勤務実態が明らかにされた。そこで、文部科学省は、平成二十九年六月に「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」を中央教育審議会に諮問し、十二月にその「中間まとめ」が取りまとめられた。

そこには、「基本的には学校以外（地方公共団体、教育委員会、保護者、地域ボランティア等）が

担うべき業務」「学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務」「教師の業務だが、負担軽減が可能な業務」の三つの観点で、教師の業務を検討する必要性が述べられている。

この「中間まとめ」を踏まえて、文部科学省は、「学校における働き方改革に関する緊急対策」をまとめ、公表した。文部科学省が中心的に実施していく内容が示されている。それを読んで、改めて校長として、教職員の組織管理や勤務時間管理、健康安全管理などのマネジメントを着実にこなさなければならないことを再確認した。

また、校長のリーダーシップのもと、同僚性を発揮しチームの力を生かした「互助の精神」と教職員一人一人の「自助努力」がより大切になると感じた。併せて、行政からの人的・物的な支援や対策（公助）も、教師の負担を軽減することに繋がると思う。

今後は、教育の質をさらに向上させ、教師が子どもと向き合う時間や本来の業務である授業研究の時間の確保に努める体制を創ることが必要なことである。

豊かな心をもち 輝いて生きる子どもたちの育成を目指す学校経営

豊かな心を育む「ふるさと教育」の推進

茂木町立茂木小学校 菅間 明夫

「一人一人の児童・生徒に目標と希望をもたせ、郷土愛の満ちた豊かな心を育て、ふるさと茂木の明日を担うたくましい人材の育成につながる教育を推進する。」

これは本町教育の経営方針であり、この方針に基づいて本校では「ふるさと教育」に力を入れていきます。その実践例を紹介します。

「地域とともにある学校と特色ある活動の推進」

①地域の人材を生かす

以前から多くの学校支援ボランティアの協力をいただいています。昨年度からボランティアを委嘱し、地域連携教員を中核として充実に努めています。その結果、子どもたちへの教育的な効果の向上はもちろん、教職員の連携に係る事務的・心理的な障壁が軽減され、地域との連携に積極性が見られるようになりました。

また、それとは別に昨年度に組織された「緑のボランティア」は、子どもたちの教育環境の改善の呼びかけのもとに立ち上がった組織で、定期的な環境整備（除草等）の他、職員だけでは対応しき

れない授業や学校行事等に献身的に協力していただいています。

これらの活動を通して、子どもたちは多くの地域の方々とふれあい、豊かな心を育成するために効果を上げています。

②地域の教育資源を生かす

地域には、授業や学校行事に活用できる教育資源が多く存在していますが、多くは素材であったり、知識が乏しかったりして、そのまま教材として活用するには難しい傾向にあります。

しかし、子どもたちに郷土愛や地域に誇りをもたせるためには格好な教育資源です。本校では、ボランティアの力をお借りして、積極的に教材化に努めています。魅力的な内容は、子どもたちはもちろん、教師にとっても地域に対しての興味関心を喚起するにあまりあるものが多く、

改めて豊かな地域に対する認識を深めることができま



茂木町在来種大豆の収穫(四年生総合的な学習)

水と緑と心の豊かな学校

さくら市立上松山小学校 斎藤 学

本校は明治二十六年開校で、今年創立一二六周年を迎えます。通学区内は、元は大部分が農村地帯でしたが、昭和三十年代から田園の宅地化が進み、現在は約半分が昔ながらの農村地帯、半分が住宅地、かつ宅地開発は今も進行中で、少子化傾向の社会状況にあつて、児童数は増加しています。

一 環境緑化日本一

本校の学校敷地面積は三〇、六七六㎡と広大で、多種多様な樹木・草花が生い茂る自然林、児童が農作物や植物を栽培するための農園や花壇などを十分に備えています。また、地下水を水源とする清らかな水をたたえた、鯉その他の多種多様な水生生物が生息する池や樹間を流れる小川があり、その環境を活かした教育活動が本校の特色の一つです。児童は年間を通じて緑化環境の整備に取り組めます。その活動が認められ、平成二十五年度には全国学校関係緑化コンクールで特選を受賞するなど、

緑化関係の表彰が多数あります。

二 地域の協力と支援

本校のもう一つの特色は、保護者や地域住民の方々からの多大な支援です。保護者・高齢者などの環境緑化活動への協力の他、朝の読書の読み聞かせ、国語の書写指導、生活科や総合的な学習の時間における農作物の栽培や稲作体験への支援、家庭科の裁縫実習や社会科の校外学習における引率、見学の受け入れなどで、ほぼ毎日のように、数え切れないほどのご支援・ご協力をいただいています。水清く緑豊かな自然環境の中で、保護者や地域住民との交流により、心豊かな児童を育てるために、特色ある教育活動の推進を図って行きたいと考えています。



学校支援ボランティアの農園活動指導による

特色ある学校づくり

地域とともにある学校

野木町立佐川野小学校 瀬戸 栄

一 はじめに
 本校学区は、県最南端にある野木町の東部に位置し、東と北は小山市に、南は茨城県古河市に接しています。学校は畑や木立に囲まれ、野菜やしいたけ、果樹栽培等農業の盛んな地域です。

開校は明治八年で、今年で一四三年目になる歴史と伝統のある学校です。近年少子化が進み、現在全児童八十二名の小規模校であります。

地域や保護者の方々は、学校の教育活動に対して、大変協力的で、あらゆる方面で地域や保護者の方々にお世話になっていきます。その中から、特に地域の方々とともに行っている「ふれあい大運動会」と「佐川野っ子祭り」についてご紹介します。

二 「ふれあい大運動会」

本地区は、三地区に分かれており、三地区をまとめる分館があります。その分館と学校の共催という形で運動会が行われています。子どもだけの種目や、地域の方々と一緒に進んでいく種目、地域の方々のみの種目などでプログ



ラムが編成され、子どもの紅白の勝負ももちろん、三地区対抗の総合優勝もあがり、子どもも大人も盛り上がった運動会になります。地域の方々の種目になれば、子どもたちは真剣にがんばっている大人の姿や、自分の住んでいる地域の応援で、黄色い声援が一段と高まります。地域と学校が一つになった瞬間を垣間見ることが出来ます。

三 「佐川野っ子祭り」

毎年十一月に、バザーも兼ねて保護者や祖父母、地域の方々をお招きし、子どもたちの出し物や作品等を見ていただいています。保護者の方々の協力で「縁日」を開いていただき、地域のお年寄りからは、物作り体験教室を開いていただいています。「竹とんぼ作り」「お手玉作り」「缶ポックリ作り」「絵手紙」「折り紙」「テープ細工」で作った物を子どもたちは大事そうに家に持ち帰ります。お昼は地域の方から協力いただいていた餅米の赤飯と、学校農園でできた芋を使つての大学芋をみんなで食べます。ここではみんなの笑顔がいっぱい



地域とともにある学校を目指して

大田原市立蛭田小学校 佐藤 工

本校は大田原市の南東部、箒川沿岸の農村地区にある児童数六十七名の小さな学校です。明治七年創立の歴史があり、ほとんどの児童の祖父母や保護者も本校の卒業生です。学校経営方針の一つに、「学校・家庭・地域が一体となった特色ある教育活動の推進に努める」を掲げ、地域とともにある学校の構築に取り組んでいるところです。

地域は、総合的な学習の時間に欠かせない自然環境・社会環境に恵まれ、特に、保護者や地域の方は、学校のために惜しみなく温かな支援をしてくださっています。例年、地域コーディネーターの協力を得て、全校児童で稲作活動を行っています。田植えや稲刈りでは十数名の保護者や祖父母の協力をいただき、地域の主産業である農業を体験しています。ここで収穫した餅米は、十一月に行われる「ひるっ子まつり」(生活科・総合的な学習の発表会)において、見学に来た家族と一緒に赤飯にして味わっています。

また、「おじいちゃん・おばあちゃん小学生」という、高齢者参加型授業も行っています。これは児童の祖父母や地域の高齢者に普段の授業を一緒に受けていただき、また、給食もランチョムと一緒に食べていただく企画で、年に二回実施しています。昨年度は、英語活動や図工、音楽や書写などの授業に参加していただき、「楽しかった。また、次回も参加したい」という感想をいただきました。日頃の学校への支援に対して、感謝の気持ちを表すことが出来たかと思っています。

今後も、新学習指導要領で示された「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、総合的な学習の時間をはじめ、日常の教育活動において、家庭や地域との連携・協働を、より組織的・計画的に実践していきたいと考えています。





「栃木県女性校長教頭会だより」

栃木県女性校長教頭会長

伴 真貴子

本会は、県内公立小・中学校及び義務教育学校の女性校長と副校長・教頭で組織する会です。設立は昭和四十三年五月、今年でちょうど五十年を経過しました。今年度は、校長九十九名と副校長・教頭百六十七名が加入しました。

五月十一日に総会と第一回研修会を開催しました。今年度の活動方針を定め、研究主題を「未来を拓き心豊かにたくましく生きる日本人を育成する学校教育の推進」夢や志をもって未来を創る子どもを育む学校経営」としました。

また、研修会では、講師の栃木県教育委員会教育次長 池田 聖様から、「学校安全と校長の役割」と題し、危機管理の基礎・基本とともに、過去の事例を踏まえ、管理職としてどう対応すべきか、貴重なご講話をいただきました。

八月に開催する第二回研修会では、研究主題に基づく研究発表と、脳科学者の黒川伊保子様をお招きしてご講話をいただく予定です。

今年度も本会の特性を生かし、会の充実を目指す所存です。



「栃木県教員育成指標の積極的な活用を」

栃木県教育委員会事務局総務課

県教育委員会では、改正された教育公務員特例法に基づき、本年三月に「栃木県教員育成指標」を策定しました。指標の種類は、校長、教諭、養護教諭、栄養教諭の四つです。

校長の指標については、まず、学校組織のリーダーに求められる資質の根幹をなすものを定め、さらに、それらを具体化させた補足指標を設定しました。ご自身の学校経営の推進等にお役立ていただければ幸いです。

教諭、養護教諭、栄養教諭の各指標については、教職生活全体を見通して段階的・継続的に資質の向上が図られるよう指標を設定しました。指標には、今日的な教育課題や、これからの社会の変化を見据えた内容も盛り込まれています。また、行動規程表をベースに作成してありますので、現在の状況を確認することはもちろん、行動規程表の目標を設定する際に参考にしていただくこともできます。所属職員に指導・助言される際などに、是非、ご活用ください。

平成三十年度

「関ブ口理事会だより」

栃木県小学校長会副会長

浪花 寛

五月十一日(金) 横浜市「新横浜グレイスホテル」で、第一回理事会が以下のように開催されました。

○会長あいさつ

○協議

◆平成二十九年年度会務報告、決算会計監査報告

◆平成三十年度役員選出

◆平成三十年度事業計画案、予算案

◆第七十回長野大会について

◆運営要領・役割分担・宣言文案等

※栃木県の提案分科会及び地区

第ⅠA分科会(上都賀)

第ⅤK分科会(宇都宮・上三川)

◆第七十一回千葉大会について

平成三十年六月十三日・十四日

全体会・千葉県文化会館

分科会・ガーデンシティ千葉 他

※栃木県の提案分科会及び地区

教育課程・豊かな人間性(那須)

危機管理・健全育成(塩谷)

○情報交換

・組織(政令市と県との関係)

・教職員評価の給与反映

・教職員希望者の減少

・管理職希望者の減少

・働き方改革の実施状況 他

「全国連合小学校長会第七十回総会・研修会から」

栃木県小学校長会長

福田 順一

五月二十三日、東京虎ノ門ニッショーホールにて全連小理事、代議員約六百名が参加し、文部科学省清原洋一視学官をはじめ、多数の来賓をお迎えしての総会、文科省の行政説明を中心とした研修が開催された。

総会では、二年目を迎えた種村明頼会長から「変化に主体的にかかわり、未来の創り手となる子どもを育成のために、校長は自らの使命を自覚し、創意ある展望と計画のもと、確かな実行力をもって信頼される学校づくりを努めなければならぬ」との力強い決意表明があった。

清原視学官からは、教育再生は国の最重要課題であり、人づくりのために学校教育の充実を推進したいとの文部科学大臣祝辞が披露された。

研修では、昨年度に引き続き、初等中等教育局担当の白間審議官より「当面する初等教育の諸問題」と題して、社会に開かれた教育課程の意義や情報活用能力の育成、働き方改革等についての講話があった。

各課長からは新学習指導要領について、外国語教育、教職員定数・業務の改善について、情報教育・プログラミング教育等についての説明があった。

話題の広場

閉校を迎える前に

佐野市立飛駒小学校 蝶野 一公

本校は、平成三十二年(二〇二〇年度)の『あそ野学園義務教育学校』の開校と同時に、一四五年の長い歴史に幕を閉じ、閉校となります。

昨年度より、『あそ野学園』の開校に向けて、開校準備委員会等多くの委員会・部会を開き、校章や校歌、制服、通学方法、PTA組織等、開校に必要な事柄について検討を重ね、それぞれ決定ないし、ある程度の方向性が定まってきました。そして、今年度からは閉校準備委員会も設置し、閉校に向けての準備も始まっています。

来年度、全ての行事が『飛駒小学校最後の〇〇』となります。地域からは、閉校を惜しむ声やその後の心配などが聞かれます。そこで、今年度は行事などをできるだけ地域に公開し、児童が学校で活動している様子を見て、目に焼き付けていただくように考えています。更に行きたいと思えます。考え、行っていきたいと思えます。

運営拠出金委員会だより

運営拠出金委員長

和久 賢次

今年度より新たに県小学校長会の会員になられた先生方、ご昇任の会員にあらためてご紹介します。本校長会は、各地区小学校長会で組織された連合機関であり、新しい教育の創造に向け主体的活動の充実と強化に取り組んでおります。

このような活動を支えるため、運営拠出金を設定し、新加入の皆様より拠出いただいております。本委員会ではこれらの保管と管理を行っております。

具体的には、現状としては、三年後の関プロ小学校長会栃木大会に向けて準備資金や開催資金を積み立てることを主な取組としております。

本来ですと研修に対して補助金を支出すべきところですが、県からの補助金カットや市町からの法令外負担金減額の影響から、先のような事業運営となっております。会員の皆様におかれましては、現状をご理解の上、ご協力の程お願い申し上げます。

県小学校長会事務局だより

事務局長 吉成 隆志

五月十七日の定期総会(代議員制)では、平成二十九年度事業報告・決算報告、平成三十年役員報告・活動目標・事業計画・予算案審議があり、承認されました。新年度の方向性が決定し、県小学校長会の活動が順調にスタートしました。

また、学校の統廃合による会員数の減少・研究大会運営基金や全連小の助成の停止による収入の減少に対応しながら、三年後に開催される関プロ栃木大会に向けて今後も支出の見直しを図り、円滑な小学校長会活動ができるように事務局も努めて参りたいと思っております。

今年度は、関プロ大会が長野で、全連小大会が北海道(函館)で開催されます。なお、関プロ大会で、宇都宮上三川・上都賀地区が発表します。

栃木県小学校長会事務局は、今年度から吉成事務局長と高柳事務局員です。勤務は九時～十六時(昼休み一時間)です。

不在の場合は留守電設定にしておきますので用件をお話してください。

編集後記

校長先生方の思いや考えが、ぎゅっと詰まっている「校長会報」。

その最終頁の「編集後記」を認めることになった。有終の美を、飾ることができるとかという重圧がのしかかる。

私は、栃木県小学生バレーボール連盟に所属し、理事長として、栃木県におけるバレーボールの指導・普及にあたり、小生が、生涯にわたってバレーボールに関わって生活するか否かを、決定するターニング・ポイントに、直接関与している。

「始め良ければ終わりよし」という諺もある。我々小学校教育に携わるものは始めも肝要かも知れない。



栃木市立南小学校 阿部 誠